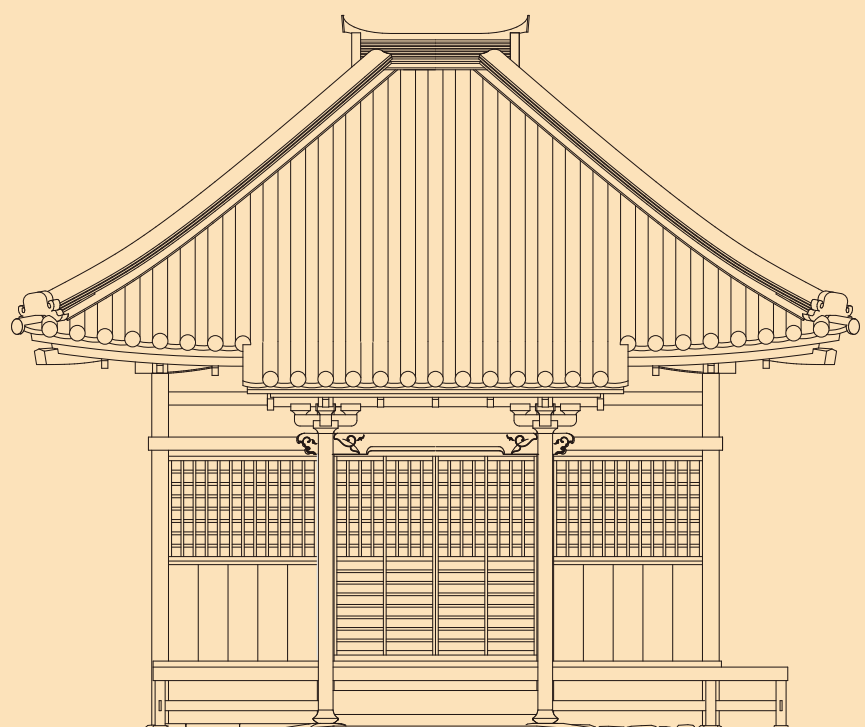




公益財団法人
和歌山県文化財センター年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2017





1 東城跡発掘調査 堀コーナー部(北西から)



2 田屋遺跡第2次発掘調査 竪穴建物(真上から)



1 上杉謙信霊屋 竣工



2 切部王子跡社殿(切目神社本殿) 竣工

目 次

平成 29(2017)年度 受託業務一覧	2	平成 29(2017)年度 受託業務所在地図	3
----------------------	---	------------------------	---

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等

東城跡の発掘調査	4
川辺遺跡の第 2 次発掘調査	5
吉礼Ⅲ遺跡の発掘調査	5
田屋遺跡の第 2 次発掘調査	6
和歌山城跡の発掘調査	7
和歌山城跡の第34次発掘調査支援	8
友田町遺跡他の発掘調査支援	8
天王塚古墳の第 2 次発掘調査支援	9
亀川遺跡の発掘調査等支援(亀川小学校)	9
亀川遺跡の発掘踏査等支援(亀川中学校)	10
栗島遺跡の発掘調査等支援	10
椒浜遺跡の発掘調査等支援	11
藤並地区遺跡の第 3 次発掘調査	11
立野遺跡の確認調査等支援	12
祓殿石塚遺跡(仮称)の発掘調査	12
新宮城下町遺跡の確認調査(2)支援	13
根来寺遺跡の出土遺物等整理支援	13
新宮城下町遺跡の第 2 次整理	14

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 上杉謙信霊屋の保存修理	15
重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか 二棟の保存修理	16
重要文化財 那智山青岸渡寺本堂の保存修理	17
重要文化財 名手本陣妹背家住宅主屋及び 米蔵の保存修理	18
国指定史跡 旧名手宿本陣御番所 復旧整備基本設計	19
県指定文化財 上岩出神社本殿保存修理	20
県指定文化財 地藏堂保存修理	20
県指定史跡 切部王子跡社殿保存修理 ～本殿及び拝殿の保存修理～	21
熊野那智大社拝殿保存修理 ～境内施設整備事業に伴う技術支援～	21
景観重要建造物大福院の 保存修理に伴う調査・設計	22

関連研究・資料紹介

紀伊地域の首長墓系譜について	23
----------------	----

普及活動

平成29(2017)年度の普及活動	25
-------------------	----

センター概要

平成29(2017)年度概要	29
----------------	----

巻 頭 写 真

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 東城跡発掘調査 堀コーナー部(北西から) | 3 上杉謙信霊屋 竣工 |
| 2 田屋遺跡第 2 次発掘調査 竪穴建物(真上から) | 4 切部王子跡社殿(切目神社本殿) 竣工 |

例 言

- 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下「当センター」という）が平成 29 年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務、および普及活動の成果をまとめたものである。
- 掲載写真・図面は、基本的に調査および整理中に撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。なお、遺跡の時代は出土遺構の時代に則る。
- 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、寺本就一・森田真由香が担当した。

平成29(2017)年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

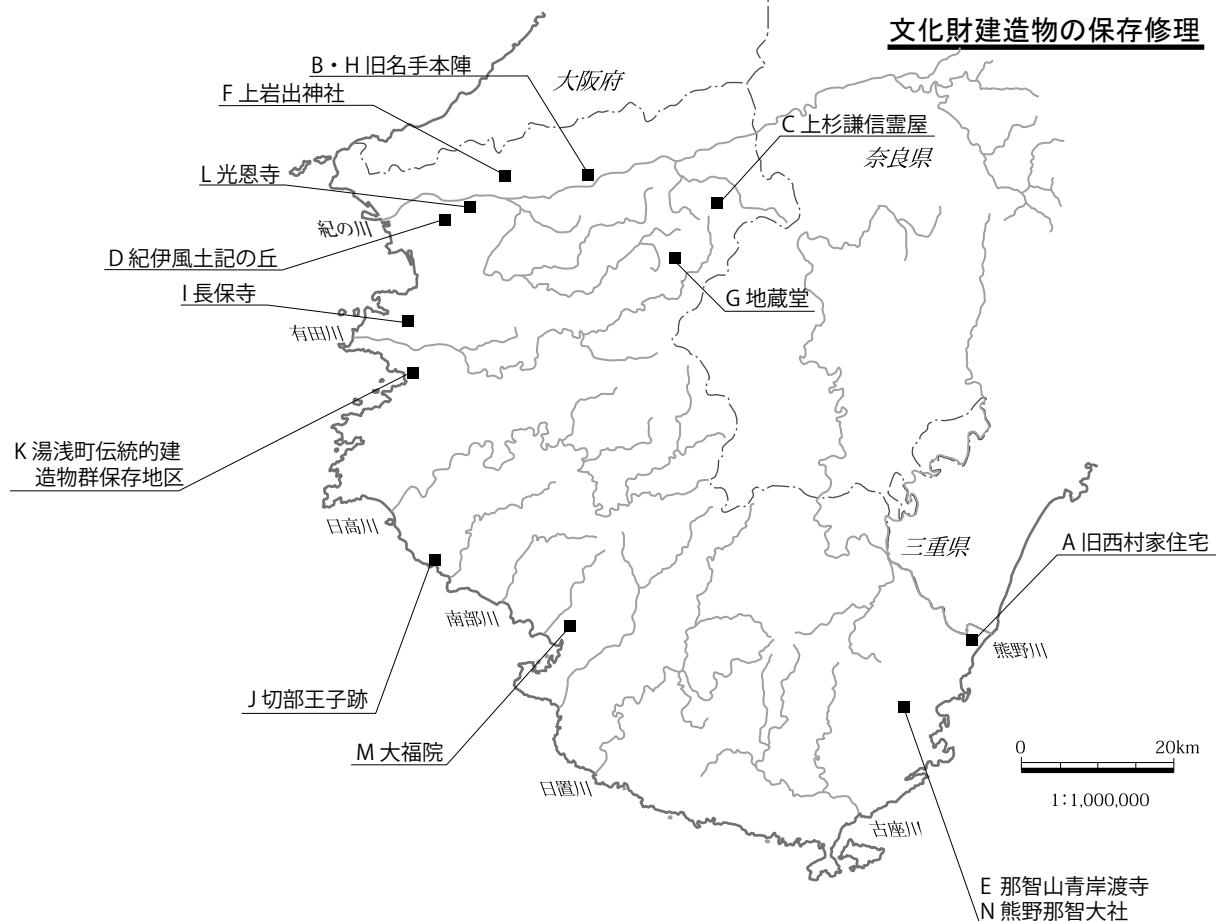
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1-1	都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う川辺遺跡、東城跡第2次発掘調査等業務（東城跡）	和歌山市山口西および楠本	2017.05.25～ 2018.03.23	3,860.4㎡	和歌山県
1-2	都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う川辺遺跡、東城跡第2次発掘調査等業務（川辺遺跡）	和歌山市山口西および楠本	2017.05.25～ 2018.03.23	2,461.9㎡	和歌山県
2	特別史跡岩橋千塚古墳群天王塚古墳第2次発掘調査等支援業務	和歌山市下和佐	2017.06.29～ 2018.03.20	123㎡	和歌山県
3	和歌山橋本線道路改良工事に伴う吉礼Ⅲ遺跡発掘調査業務	和歌山市吉礼	2018.01.10～ 2018.06.10	1,145.6㎡	和歌山県
4	県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う田屋遺跡第2次発掘調査業務	和歌山市小豆島	2017.02.02～ 2017.08.31	1,782㎡	和歌山県
5	和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う和歌山城跡発掘調査業務	和歌山市七番丁、九番丁	2017.09.23～ 2019.03.29	4,253.4㎡	和歌山県
6	和歌山城跡第34次発掘調査技術職員等支援業務	和歌山市七番丁	2017.08.01～ 2018.01.31	-	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団
7	友田町遺跡他発掘調査技術職員等支援業務	和歌山市友田町、七番丁、府中	2017.12.25～ 2018.03.30	-	(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団
8	亀川小学校校舎等建設工事に伴う亀川遺跡発掘調査支援業務	海南市且来	2017.07.13～ 2017.10.20	284㎡	海南市
9	亀川中学校校舎等建設工事に伴う亀川遺跡発掘調査支援業務	海南市且来	2017.05.20～ 2017.08.15	273㎡	海南市
10	紀の川市内遺跡発掘調査等支援業務	紀の川市東大井	2017.10.16～ 2017.12.22	1,340㎡	紀の川市
11	有田市内発掘調査等支援業務	有田市内	2017.06.20～ 2017.02.28	24㎡	有田市
12	一般国道42号（湯浅御坊道路）4車線化事業に伴う藤並地区遺跡埋蔵文化財発掘調査（第3次調査分）業務	有田川町水尻	2017.07.03～ 2017.10.10	118.6㎡	西日本高速(株)
13	立野遺跡確認調査等支援業務	西牟婁郡すさみ町周参見	2017.04.21～ 2017.10.31	236.9㎡	すさみ町
14	熊野古道見どころ整備事業に伴う祓殿経塚（仮称）発掘調査等業務	田辺市本宮町本宮	2017.09.23～ 2018.03.29	70㎡	和歌山県
15	新宮市文化複合施設建設に伴う新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務	新宮市下本町	2018.03.06～ 2019.03.31	3,475㎡	新宮市
16	新宮城下町遺跡確認調査（2）支援業務	新宮市下本町	2017.01.10～ 2017.06.30	734㎡	新宮市
17	根来寺遺跡出土遺物等整理支援業務	岩出市根来	2017.07.01～ 2017.12.28	-	岩出市
18	新宮城下町遺跡第2次出土遺物等整理業務	新宮市下本町	2017.11.28～ 2018.03.31	-	新宮市
文化財建造物の設計整理業務等					
	受託業務名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか二棟保存修理事業に係る設計監理	新宮市新宮	2017.04.01～ 2018.03.31	3棟	新宮市
B	重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅主屋及び米蔵保存修理事業実施設計監理	紀の川市名手市場	2017.05.20～ 2018.03.31	2棟	紀の川市
C	重要文化財 上杉謙信霊屋保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2017.06.08～ 2018.03.31	1棟	(公財)高野山文化財保存会
D	重要文化財 紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導（旧柳川家住宅）	和歌山市岩橋	2017.04.29～ 2017.09.29	1棟	和歌山県 (県立紀伊風土記の丘)
E	重要文化財 那智山青岸渡寺本堂保存修理事業（災害復旧）技術指導	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2018.02.06～ 2018.12.31	1棟	宗教法人 那智山青岸渡寺
F	県指定文化財 上岩出神社本殿保存修理技術指導	岩出市北大池	2017.11.13～ 2018.03.31	1棟	宗教法人 上岩出神社
G	県指定文化財 地藏堂保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町花園北寺	2018.02.01～ 2018.03.31	1棟	北寺区
H	国指定史跡 旧名手宿本陣御番所復旧整備基本設計	紀の川市名手市場	2017.04.04～ 2018.03.31	2棟	紀の川市
I	国指定史跡 和歌山藩主徳川家墓所歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（護摩堂）技術支援	海南市下津町上	2017.11.21～ 2018.03.31	1棟	宗教法人 長保寺
J	県指定史跡 切部王子跡社殿保存修理技術指導	日高郡印南町西ノ地	2017.04.01～ 2017.05.31	1棟	宗教法人 切目神社
K	伝統的建造物群保存地区 湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区における伝統的建造物の保存修理事業実施等に伴う技術指導等	有田郡湯浅町湯浅	2017.05.18～ 2018.03.24	-	湯浅町
L	市指定文化財 光恩寺庫裡保存修理技術支援	和歌山市大垣内	2017.08.17～ 2017.11.30	1棟	宗教法人 光恩寺
M	景観重要建造物「大福院」保存修理に伴う調査・設計	田辺市湊	2017.11.01～ 2018.03.27	1棟	田辺市
N	— 熊野那智大社境内施設整備事業技術支援	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2017.11.06～ 2018.03.31	11棟	宗教法人 熊野那智大社

平成29(2017)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理



文化財建造物の保存修理



東城跡の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代・古墳時代・中世
所在地：和歌山市山口西および楠本
調査の原因：都市計画道路西脇山口線道路建設工事
調査期間：2017.08～2017.12
調査コード：17-81・443

はじめに

和歌山県からの委託を受け、約 3,860m²を対象に調査を実施した。

東城跡は和歌山市の東北部、山口西及び楠本に所在する古代末から中世にかけての城館である。この地で勢力を誇った中村氏の築いた居館と伝えられてきたが、その位置も含めて伝承の域をでないものであった。なお、当該地付近は古代にあっては熊野古道のルートに当たっており交通の要衝でもあった。

調査の成果

第1遺構面では、幅 4.5 m前後、深さ 1.2 m前後を測る堀を検出した。確認規模で東西延長約 38 m、南北延長約 20 m分を測る。両者はほぼ直角に交わり隅部を構成することから、全体の形としては方形ないし長方形を呈する区画を圍繞する堀と思われる。堀埋土からの出土遺物は少ないが、13世紀前半に帰属すると思われる土師器皿や瓦器椀などが出土している。この堀については、出土した遺物の時期や規模などからすれば、東城と呼ばれてきた居館に伴う堀であると考えるのが妥当と思われる。

第2遺構面では、弥生時代末から古墳時代初めにか

けての竪穴建物や溝などの遺構を検出した。検出された竪穴建物は 29 棟を数える。深さ 0.5 m前後を測るものもいくつかあり、平野部で検出される竪穴建物としては、全体的に残りのよいことが特徴と言える。

集落の範囲としては、西側は調査区の西側で検出された自然流路まで、東側は調査区東端で検出された溝群が東限を成す可能性が高いものと判断され、集落は北東から南西方向に延びる微高地上に展開していたものと思われる。なお、この集落の営まれていた期間は弥生時代末から古墳時代初めという短期間であり、その時代の前後を欠いている。こうした集落の消長については近隣に所在する西田井遺跡や田屋遺跡などの周辺の集落の動向と併せて考える必要があろう。

まとめ

今回の調査成果としては、伝承として知られていた東城跡の堀と考えられる遺構を検出したことが上げられる。直接的に東城と結びつく資料は得ることができなかったが、堀から出土した遺物の年代や伝承されてきた東城跡の位置を鑑みれば、今回検出された堀が東城に係るものであることはまず間違いないものと思われる。なお主屋については、今回の調査区のさらに南東側に建てられていたと思われる。この主屋を含め、堀を含む全体の規模・内容を解明していくためにも、今後開発が進むと考えられる周辺の調査に十分留意していく必要があろう。

(村田 弘)



堀内部の掘立柱建物(北から)



竪穴建物群(西から)

川辺遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～中世
 所在地：和歌山市山口西および楠本
 調査の原因：都市計画道路西脇山口線道路建設
 調査期間：2017.09～2017.12
 調査コード：17-01・145

はじめに

和歌山県から委託を受けて、都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴い約2,500㎡を対象として実施した。発掘調査位置は、平成26年度に実施した川辺遺跡第1次調査の西側である。調査は、排土置場等の関係から南北2つ(2-1区、2-2区)に分けて実施した。

調査の成果

調査の結果、弥生～古墳時代の流路、弥生時代～古墳時代の周溝墓の一部又は区画溝、弥生時代後期の土器棺墓、古代～中世の流路や畦畔、水田等を確認した。今回の発掘調査地は、弥生時代に開発され、弥生～

古墳時代には、水田や流路、一部墓域として利用されたものと考えられる。その後、古代～中世にも引き続き流路の開削が行われ、当該地は、水田を伴う生産域として利用されていたとみられる。ただし、弥生～古墳時代の流路は、原地形に沿うN-33～47度-E又はそれに直行する方向に延びる一方、古代の流路はN-16度-E又はN-7度-Eと異なる点は注目される。これは、古代の流路は土地区画制度である条里制に基づく区割りを示す可能性が高いためと考えられる。

(金澤 舞)



2-1区全景(東から)

吉礼Ⅲ遺跡の発掘調査

遺跡の時代：中世
 所在地：和歌山市吉礼
 調査の原因：和歌山橋本線道路改良工事
 調査期間：2018.02～2018.05
 調査コード：18-01・255

はじめに

和歌山県から委託を受けて、和歌山橋本線道路改良工事に伴い約1,040㎡を対象として実施している。調査は、排土置場等の関係から3つ(1区、2区、3区)に分けて実施した。なお、現在も発掘調査を行っているため、調査成果が判明している1区についてのみ記載する。

調査の成果

1区では、中世後半のものとみられる鋤溝や溝、水田、畦畔、土坑、ピット、小河川等を確認した。当該地は、土層堆積状況や各土層からの出土遺物からみて、

中世以前に開析谷が埋没し、中世から現在まで耕作地として利用されてきたとみられる。検出された鋤溝は、南北方向並びにそれに直行する方向に延びている。遺構からは、中国製の白磁小碗や瓦器小片等が出土した。

(金澤 舞)



1区全景(北から)

田屋遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～古墳時代・奈良時代・平安時代
所在地：和歌山市小豆島
調査の原因：県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業
調査期間：2017.02～2017.08
調査コード：16-01・093

はじめに

和歌山県から委託を受けて、県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴い約2,000㎡を対象として実施した。発掘調査位置は、平成27年度に実施した田屋遺跡第1次調査の北側(2-1区)と南側である。南側の調査は、排土置場等の関係から南北2つ(2-2区、2-3区)に分けて実施した。

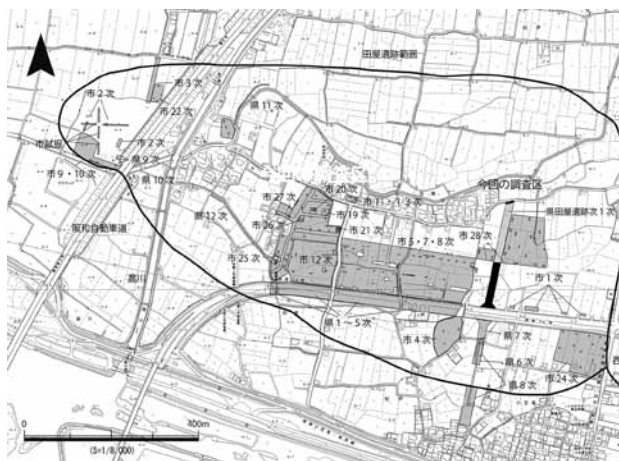
調査の成果

2-1区

調査の結果、基盤層上面で古代末から中世の流路1条、時期不明のピット1基を確認した。

2-2区・2-3区

調査の結果、基盤層上面で中世以前とみられる掘立柱建物2棟、古墳時代中期前半の竪穴建物1棟、古墳時代中期後半から後期前半の竪穴建物14棟、流路6条以上、その他多数の土坑、ピット、自然流路を確認した。また、調査区北から南へ30m付近で、北東から南西にかけて基盤層を削り出した大規模な畦畔状遺構を検出した。



発掘調査位置及び既往の調査位置図
(〔公財〕和歌山市文化スポーツ振興財団編 2017『田屋遺跡第18次発掘調査報告書』一部加筆引用)

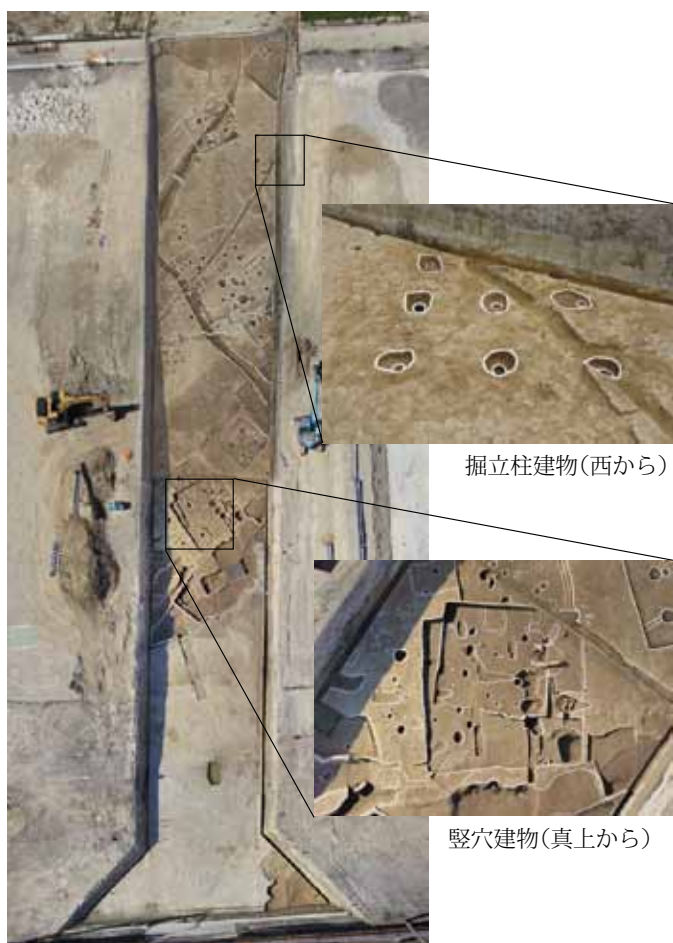
まとめ

今回の発掘調査の結果、2-1区では古代末から中世の流路等を確認した。流路は、当区の発掘調査を実施するまで調査地北側を東西に流れていた六箇井用水の支流に向かうことから、六箇井用水の成立時期が不明確であるものの、関連性が推測される。

2-2・2-3区では、微高地上に展開する中世以前とみられる掘立柱建物2棟、古墳時代中期前半から後期前半の竪穴建物を15棟、多数の土坑等が検出され、当該地に集落が展開することが新たに判明した。検出された遺構の密度は高く、周辺部にも同様の微高地が広がり、集落が展開するものと推定される。

田屋遺跡では、現在のところ古墳時代後期後葉から奈良時代までの建物跡が検出されておらず、今回の調査成果は、田屋遺跡の集落終焉の実態を明らかにするうえで、極めて貴重な成果を得ることができた。

(金澤 舞)



2-2区・2-3区全景(真上から)

和歌山城跡の発掘調査

遺跡の時代：古代～近世
所 在 地：和歌山市七番丁・九番丁
調査の原因：和歌山県立医科大学薬学部新築
調 査 期 間：2017.09～2019.03
調査コード：17-01・375

はじめに

和歌山城跡は和歌山市の中心地に位置し、およそ堀で囲まれた旧三の丸を範囲とする遺跡である。調査地は堀を挟んで和歌山城の北側に位置する旧伏虎中学校敷地で、周辺は付家老をはじめとして紀州徳川家の重臣の屋敷地跡が集中する。また、和歌山城は江戸時代初期には浅野氏が城主で、織豊期には桑山氏が城代を務めている。

発掘調査は、和歌山県立医科大学薬学部新築に伴うもので、調査面積は約 4,200㎡で、次年度にかけて継続する事業である。調査区は 1～4 区の 4 区画に分かれ、1 区と 2 区、3 区と 4 区を反転して調査することになっており、本年度は、1 区と 3 区の調査を実施しているが、現時点では最下面までは到達していない。

調査の成果

調査区付近の標高は約 5 m で、地表下約 4 m 余り掘り下がることになっている。調査の対象となる面は 9 面で、江戸時代が 4 面、織豊期を含む中世以前が 5 面である。基本的な層序は、江戸時代以降現在まで約 2 m に亘る整地が繰り返し行われており、その下は自然（風成）堆積した砂層の下に 16 世紀末頃と考えられる遺構面、更には下は自然（氾濫）堆積したシルト層とな

る。シルト層以下では数時期以上にわたる水田耕作面が確認でき、その下部には遺物包含層が 2 層以上存在することが明らかになっている。

江戸時代の第 1 遺構面の遺構は比較的少ないものの、第 2～4 遺構面では多くの遺構を検出している。これらには、井戸、塵芥処理穴（ごみ穴）、溜桧、石積み排水溝、石積み半地下式倉庫、竈などがある。なかでも、井戸の数は 1・3 区併せて 20 基以上と目立って多く、1 区・3 区付近は屋敷地の中でも台所などの生活空間であったことが窺える。また、地下式倉庫はかなり破壊されていたが、長さ 5 m、幅 2 m あり、使用していた石材には城の石垣に使用するような大きなものが多く、矢穴や刻印が認められるものがある。

遺物では、多量の国産陶磁器や銭貨、鉄製品、木製品などがあり、なかでも 17 世紀初頭頃の唐津焼や織部焼・志野焼などが多く出土している。

16 世紀末頃の遺構には畑の畝や井戸・土坑などがある。遺物には景德鎮や漳州窯などの青花などがあり、桑山時代の和歌山城下町に関わる遺構や遺物の可能性がある。ただ、この時期、1 区から 3 区を縦断するように北北西―南南東方向に川状遺構が存在することが明らかになっており、江戸時代のように整然と区画された城下ではなかったことが窺える。この川状遺構は中世に開析（掘削）され、水田耕作に利用されたと考えられるが、古代以前の遺物包含層を削るよう存在することから、それ以前には存在しなかったと判断できる。

（川崎 雅史）



調査地(北東から)



1区第5遺構面(真上から)

和歌山城跡の第34次発掘調査支援

遺跡の時代：江戸時代
所 在 地：和歌山市七番丁
調査の原因：旧校舎基礎解体工事
調 査 期 間：2017.08～2018.01
調査コード：WJS-34(和歌山市の調査コード)

はじめに

旧伏虎中学校校舎基礎解体工事に伴う和歌山城跡第34次発掘調査を円滑に行うため支援業務を受託して実施した。

今次の調査は、調査区として4・5・6区があり、当文化財センター職員等担当地区は、4・6区である。

支援業務の内容は、6区(南敷地)では機械掘削、人力掘削、実測作業、写真撮影の支援及び調査日誌の作成を行った。また、4区(北敷地)では、調査員の技術支援を行った。以上の業務に当文化財センターの技術職員1名及び調査補助員1名が90日間従事した。

調査の成果

6区は、「和歌山城下町絵図」(安政2年(1855))により、大半の範囲が和歌山城三の丸の田宮儀右衛門

家屋敷跡に、4区は海野龍次郎家屋敷跡に該当する。

6区の各調査区における遺構面は、4面ないし5面存在する。第1遺構面は近代以後、第2遺構面は江戸時代19世紀後半～明治、第3遺構面は江戸時代19世紀前半、第4遺構面は江戸時代18世紀後半、第5遺構面は江戸時代前期17世紀と考えられる。

6区全体に17世紀全般の遺構・遺物が少ない点では、隣接する屋敷地との比較によって、田宮儀右衛門家屋敷の盛衰の一端を解き明かす成果になると考えられる。
(土井 孝之)



6区第2遺構面集石遺構検出状況(西から)

友田町遺跡他の発掘調査支援

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
所 在 地：和歌山市友田町・和歌山市七番丁・和歌山市府中
調査の原因：宅地開発・公共施設建設・宅地開発
調 査 期 間：2017.12～2018.03
調査コード：TC-13、WJS34、FC-4(和歌山市の調査コード)

はじめに

和歌山市が支援する友田町遺跡他の発掘調査を円滑に行うため、支援業務を受託して実施した。

支援業務の内容は、友田町遺跡第13次発掘調査、和歌山城跡第34次発掘調査、府中遺跡第4次発掘調査の支援を行った。

上記3遺跡の調査で各々、機械掘削、人力掘削、実測作業、写真撮影の支援及び調査日誌の作成を行った。以上の業務に当文化財センターの技術職員3名及び調査補助員2名が各々累計60日間従事した。

調査の成果

調査の結果、府中遺跡では古墳時代前期と平安時代

後期・鎌倉時代前期の柱穴・土坑、江戸時代後期の大型土坑・溝状遺構・粘土採掘土坑を検出した。

出土遺物は、古墳時代前期と平安時代後期・鎌倉時代前期、江戸時代後期に区分できる。古墳時代と平安・鎌倉時代の遺構は、柱穴が主体となり、生活遺構の存在が明らかとなった。その他、弥生時代中期の壺、平安時代後期の黒色土器A類碗が各1点出土した。

なお、国府関係ないしは該当する時代の遺構・遺物は検出されていない。
(土井 孝之)



府中遺跡1区中央遺構群(西北西から)

天王塚古墳の第2次発掘調査支援

遺跡の時代：古墳時代
所在地：和歌山市下和佐
調査の原因：史跡整備
調査期間：2017.06～2018.03
調査コード：17-01・185-562

はじめに

和歌山県の依頼を受けて和歌山県立紀伊風土記の丘が実施する天王塚古墳発掘調査等の支援業務を実施した。支援業務として、紀伊風土記の丘職員の指示のもと、天王塚古墳発掘調査等の支援を実施するために必要な発掘調査等機材の調達、必要な人員（調査員・賃金職員）の確保、消耗品等の手配及び実測図面等の記録類の作成を行った。

技術職員による業務支援

発掘調査現地において紀伊風土記の丘職員の指示に基づき、賃金職員の任用、発掘調査等機材の調達、作成図面等記録類のチェックを実施した。

人員（賃金職員）の確保

- ・ 調査補助員：3名を任用して、調査トレンチの平面図・土層図等の記録作成作業に従事した。
- ・ 発掘作業員：8名を新規に任用して、調査トレンチの掘削や測量補助等作業に従事した。

発掘調査等機材の調達

現地での撮影用デジタルカメラ及び測量用レベル、三脚等の発掘調査機材を調達した。（村田 弘）



11トレンチ実測作業状況

亀川遺跡の発掘調査等支援（亀川小学校）

遺跡の時代：弥生時代
所在地：海南市且来
調査の原因：校舎等建設
調査期間：2017.08～2017.09
調査コード：17-02・021

はじめに

海南市の依頼を受けて、海南市が実施する亀川遺跡発掘調査の支援業務を実施した。調査地は校庭の北西隅で、校舎新設予定地である。発掘調査は、海南市教育委員会職員の指示のもとに実施した。

亀川遺跡の発見は、当小学校建設時の昭和45年に端を発する。本発掘調査地の周辺において過去数度の調査がされ、弥生時代中期から古墳時代の竪穴建物や、方形周溝墓が検出され、鉄製の槍鉋や釣針が出土した。

調査の成果

調査地の土層堆積状況は、現地地表下約1.0～1.3mで弥生土器を含む包含層となる。この包含層は、色調や土質等で4層に分層（第4層～第7層）することがで

き、何れも0.1～0.2mの厚みで水平堆積を呈し、調査地の壁面を巡る。遺構は、第4層上面で弥生時代後期の幅0.5～0.6m、残存の深さ0.24mを測る南西から北東方向に延びる溝状遺構1条を検出した。第7層上面において遺構平面形が判然としないが弥生時代後期の土器の密集する箇所を4箇所確認し、土器廃棄の凹み状遺構として扱った。土層堆積状況から判断して、湿地化していたと考えられる。また、下層確認はトレンチを設け行い、第11層（黄澄・シルト）が一時期地表化していた基盤層と判断した。（佐伯 和也）



凹み状遺構土器出土状況（廃棄土坑）

亀川遺跡の発掘調査等支援(亀川中学校)

遺跡の時代：弥生時代～古墳時代・中世
所在地：海南市且来
調査の原因：校舎新設
調査期間：2017.06～2017.07
調査コード：17-02・021

はじめに

海南市の依頼を受けて、海南市が実施する亀川遺跡発掘調査の支援業務を実施した。調査地は、亀川中学校の現校舎と現体育館の間の新設校舎建設予定地である。発掘調査は、海南市教育委員会職員の指示のもとに実施した。

亀川遺跡は、昭和45年に亀川小学校校舎建設工事に際して発見された弥生時代の遺跡である。亀川中学校敷地内においても、これまでに数度の発掘調査がなされ相当の成果が報告されている。

調査の成果

本調査地は、中学校敷地の南側山裾部で、旧地形は南側から北側にかけて緩斜面となっている。北側は以

前建っていた校舎の基礎等で殆どが攪乱をうけていた。

検出した遺構は、弥生時代後期の竪穴建物(円形)2棟、弥生時代終末期の竪穴建物(方形)1棟、弥生時代後期の溝状遺構1条、中世の掘立柱建物1棟と溝状遺構1条である。

竪穴建物3棟については、後世の削平を受けており、地山面で検出したため、炉・主柱穴・壁溝のみの確認となった。竪穴建物の東半部は調査区外に延びており全容を確認することはできなかったが、推定規模は8本以上の主柱穴、直径8.5m内外である。(佐伯 和也)



竪穴建物検出状況(北西から)

栗島遺跡の発掘調査等支援

遺跡の時代：奈良時代～平安時代
所在地：紀の川市東大井
調査の原因：特別養護老人ホーム建設
調査期間：2017.10～2018.01
調査コード：17-06・15

はじめに

紀の川市東大井において特別養護老人ホーム建設に先立ち発掘調査が実施されることとなり、当センターでは紀の川市からの依頼により、建物建設予定地の北側半部を支援業務として発掘調査を実施した。なお、建物建設予定地の南側半部と擁壁部分については紀の川市教育委員会が発掘調査を実施した。

調査成果

栗島遺跡の範囲は、南北約0.4km、東西約1.1kmの大規模な遺跡で、紀の川北岸の標高約50mを測る河岸段丘上に位置する。遺跡の中央には、和泉山脈から佐川が南流する。当遺跡は、古代瓦の散布地として知られており、当センターが昭和62年度に遺跡の西側で

発掘調査を実施した際に、官衙的配置をなす掘立柱建物群と瓦窯1基を検出している。出土遺物では、「□下寺」と墨書された須恵器坏蓋や多数の瓦類が出土している。

本調査地は、東から西に向かって旧地形が傾斜し、西端は谷状地形となる。検出した遺構は、掘立柱建物、溝状遺構、土坑状遺構などで、いずれも出土遺物から古代に帰属するものと考えられる。掘立柱建物は7棟検出したが、東側の高所で検出した建物の柱穴は、遺存状態が良好でないことから、往時の生活面がもっと高かったことが推測できる。(佐伯 和也)



調査地北西部全景(南から)

椒浜遺跡の発掘調査等支援

所在地：有田市椒浜
調査の原因：確認調査
調査期間：2017.06～2018.06

はじめに

有田市の依頼を受けて和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課(以下、県文化遺産課という)が実施する椒浜遺跡確認調査等の支援業務を実施した。

支援業務の概要は、有田市及び県文化遺産課職員の指示のもと、椒浜遺跡確認調査等の支援を実施するために必要な発掘調査等機材の調達、必要な人員(賃金職員)の確保、及び作業日誌の作成を行った。なお、確認調査等支援は有田市椒浜の確認調査現地(JXTG エネルギー工場敷地内)で実施した。また、今回の調査において遺物の出土は皆無の状況であった。

技術職員による業務支援

賃金職員の任用、発掘調査等機材の調達、現地調査

において調査区の実測、写真撮影、日誌の作成等を実施した。なお、調査補助員は、県文化遺産課及び技術職員の指示のもと、現地にて確認調査等で発掘作業員への指示のほか、調査区平面図、土層図の記録類作成を補佐した。

発掘調査等機材の調達

現地で使用した測量用レベル・スタッフ等の発掘調査機材は、当センターの備品等を供した。(村田 弘)



第2区平面実測状況

藤並地区遺跡の第3次発掘調査

遺跡の時代：中世～近世
所在地：有田郡有田川町水尻
調査の原因：一般国道42号(湯浅御坊道路)の4車線化
調査期間：2017.07～2017.10
調査コード：17-21・032

はじめに

藤並地区遺跡は、有田川河口から約10km遡った左岸に位置し、周囲を丘陵に囲まれた盆地状地形に広く展開する遺跡である。過去の調査で旧石器時代から中世にかけての遺構や遺物が確認されている。遺跡を南北に縦断する一般国道42号(湯浅御坊道路)の4車線化に事業に伴い、これまで第1次(面積699㎡)・第2次(面積2,195㎡)の発掘調査が行われており、古代から中世にかけての自然流路などが検出されている。

調査の成果

第3次調査の調査区は、第1・2次調査の調査区の南に繋がる地区で、藤並地区遺跡の南端部付近に位置する。調査区の名称は13区であるが、本年度はその

一部を13-1区として調査を行っている。調査面積は118.6㎡と狭小で、攪乱も多かったものの、中世の溝状遺構や土坑、近世の耕作溝などを検出することができた。このうち東西に走る中世の溝状遺構は水田耕作に伴う水路の可能性が考えられる。

1次・2次調査と同様に建物跡など直接生活に結びつくような遺構は検出できず、出土遺物も希少で破片であることなどから考えて、調査区付近は集落の縁辺部に位置すると考えられ、中世以降は南から北に下る棚田状の水田であったと考えられる。(川崎 雅史)



調査区全景(北から)

立野遺跡の確認調査等支援

遺跡の時代：弥生時代
所 在 地：西牟婁郡すさみ町周参見
調査の原因：立野遺跡の範囲確認
調 査 期 間：2017.04～2017.10
調査コード：17-41・002

はじめに

すさみ町の依頼を受けて和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課(以下「県文化遺産課」という。)が実施する立野遺跡確認調査等の支援業務を実施した。

業務の概要

業務内容は、すさみ町および県文化遺産課職員の指示のもと、立野遺跡確認調査等の支援をするために必要な発掘調査等機材の調達、必要な人員(賃金職員)の確保、機械掘削等委託の手配および作業日誌の作成を行った。なお、確認調査等支援はすさみ町立野地内の調査地で実施し、その他の遺物実測やトレース作業は当センターにて実施した。

祓殿石塚遺跡(仮称)の発掘調査

遺跡の時代：中世～近世
所 在 地：田辺市本宮町本宮 1237 番地・1240 番地
調査の原因：熊野古道見どころ整備事業
調 査 期 間：2017.09～2018.03

はじめに

和歌山県から委託を受けて、熊野古道見どころ整備事業に伴い熊野参詣道中辺路沿道東側に位置する経塚遺構 70㎡を対象として発掘調査を実施した。さらに、その発掘調査成果を基に、熊野参詣道中辺路通行者等が遺構を理解並びに見学できるよう、現地等に遺跡復元や解説板製作設置、植樹による遺跡周辺整備、宝篋印塔レプリカの製作設置等を行った。

調査の成果

調査の結果、当初想定していた経塚遺構は確認できなかったものの、15×4mの範囲で、最大厚 0.6m を測る近世後半 18～19 世紀の石塚遺構や同時期とみられる集石遺構、13 世紀にまで遡及する可能性があ

る。発掘作業員は現地で面接を行い、新規に 2 名を任用し、人力掘削に当たった。

整理補助員は、当センター整理棟において本業務で記録した平面図および土層図等の製図(デジタルトレース)や出土遺物の実測図作成、同製図(ロットリングトレース)に従事した。

整理事業員も当センターにおいて、確認調査等で記録した平面図および土層図の製図準備(縮小コピー・スキャニング)および出土遺物の洗浄や収納等に従事した。(佐伯 和也)



確認調査作業風景

る中世の石列や集石遺構を検出した。

いずれもその立地に鑑みて、当該期の熊野参詣と関連がある宗教的な施設であった可能性が高いとみられるが、とりわけ近世の石塚遺構は、積上げられた垂円礫が熊野川又は音無川水系に認められる当遺跡周辺の石材であることから、参詣者が熊野参詣に際して大斎原を前にし、自らの穢れを落とすために周辺の礫を積んだ結果、形成されたものと推定される。

(金澤 舞)



経塚遺構検出状況

新宮城下町遺跡の確認調査(2)支援

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所 在 地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
調 査 期 間：2017.01～2017.06
調査コード：16-13・014

はじめに

新宮市が計画している文化複合施設建設に伴い、新宮市教育委員会が実施する新宮城下町遺跡の確認調査を円滑に行うための調査支援業務である。昨年度から継続して行っている業務で、調査区は①～⑩区の10区画に分かれ、総調査面積は734㎡である。

調査の成果

調査区付近の基本的な遺構面は3面で、第1遺構面が江戸時代、第2遺構面が古墳時代から中世、第3遺構面が縄文時代の遺構面となる。調査は、主に中世の遺構の内容や広がりを確認することを目的としていたことから、第2遺構面までを調査対象とし、遺構の掘

り下げは最小限に止めている。

検出した江戸時代の遺構には道路遺構や屋敷地石垣・石積み基壇、中世の遺構には道路遺構・半地下式倉庫や大型土坑・柱穴、古墳時代の遺構には竪穴建物などがある。

中世の遺構は、広い範囲に展開しており、半地下式倉庫も重複して広く点在していることが明らかになっている。道路遺構は熊野川川原に下るものであることおよび遺物などからも中世全般に営まれていた湊の存在が窺え、文献史料に登場する「新宮津」であった可能性がある。

(川崎 雅史)



⑧区の重複する地下式倉庫(西から)

根来寺遺跡の出土遺物等整理支援

遺跡の時代：安土桃山時代～江戸時代
所 在 地：岩出市根来
調査の原因：根来寺周辺観光促進拠点整備
整 理 期 間：2017.07～2017.12
調査コード：14-11・016

はじめに

当センターが2014年度に岩出市教育委員会から受託して実施した根来寺周辺観光拠点整備事業に伴う根来寺遺跡発掘調査について、発掘調査報告書作成に必要な作業工程の一部を根来寺遺跡出土遺物等支援業務として受託して実施した。

なお、本遺物整理業務の発掘調査場所は、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）が移築されている西側に当たり、現在はねごろ歴史資料館となっている。

整理作業の内容

作業内容は、発掘調査時に作成した記録類の整理および水洗い済みの出土遺物(コンテナ21箱)を対象に

注記、接合、補強、遺物実測図作成、トレース、版組、編集、遺構および遺物についての原稿執筆の作業を行った。

上記の各作業終了後、出土遺物を登録番号順に整理して遺物コンテナに収納する作業を行った。遺物コンテナには遺跡名、年度、コンテナ番号、収納遺物の登録番号をコンテナシールに記載して各々のコンテナに貼付した。また、コンテナ内の遺物を管理できるようにコンテナ台帳および遺物登録台帳を作成し、出土遺物や調査時の遺構写真データと共に岩出市教育委員会に成果品として納めた。

(佐伯 和也)



接合作業

新宮城下町遺跡の第2次整理

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所 在 地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
整 理 期 間：2017.12～2018.03
調査コード：15-43・043

はじめに

当センターが新宮市から委託を受けて実施した新宮市文化複合施設建設に伴う新宮城下町遺跡第1次発掘調査業務の第2次出土遺物等整理業務として出土した遺物および現地調査記録等の整理を行った。

整理の内容

本業務は複数次に分割して行っており、今回の業務内容は、第1次発掘調査業務で出土した遺物(コンテナ130箱)のうち、平成28年度に実施した第1次出土遺物等整理業務において未完了であった石製品15点の洗浄作業、金属製品57点の錆落とし作業、石製品15点の注記作業、コンテナ98箱分の遺物につ

いての接合・補強作業、実測作業100点を実施した。実測作業を実施したうちの拓本が必要な瓦類の瓦当面对および土器底部の糸切痕は拓本作業を実施した。

上記の作業終了後に遺物登録番号順に整理して遺物コンテナに収納し、台帳類の作成も行った。

また、金属器・金属製品のうち、遺構の評価および位置付けに不可欠または希少性が高いと判断した31点の遺物については、専門業者に委託してX線写真撮影並びに保存処理を行った。(佐伯 和也)



遺物充填材による土器補強作業

重要文化財 上杉謙信霊屋の保存修理

建築年代：江戸時代前期
所在地：伊都郡高野町高野山
修理の種類：屋根葺替
修理期間：2017.06～2018.03

上杉謙信霊屋は高野山の聖地、弘法大師空海が眠る奥院に所在する。奥院の入り口である一の橋にほど近く、御廟へと続く参道から左手に逸れて少し斜面を登った場所に、桁行三間、梁間二間、入母屋造で正面に一間の向拝を付けた檜皮葺きの御霊屋が南面して建つ。

昭和40年5月に重要文化財に指定されたが、くしくも同年秋の台風で背後にある樹木の枝が折れて屋根に直撃し、大きな被害を受けた。これにより翌41年に解体修理が行われた。この際、軒付けを除き金属板に葺き替えられていた屋根を檜皮葺きに改められている。その後、平成7年に屋根葺替工事が行われた。ところが、平成9年にまたしても台風による倒木で向拝部分から西側を中心に破損被害を受け、修理が行われた(目録に記載ないため自費修理と考えられる)。

上杉謙信霊屋の建立年代は明らかでないが、様式より江戸時代前期頃と推定されている。また、江戸時代に描かれた複数の絵図をみると、いずれにも現状と同位置に同型式の建物が描かれていることから、江戸期を通して建物が存在したことが判る。さらに、全ての絵図において、同規模、同形式の建物が二棟並んで描かれている。実際に現状の建物の東側には同規模の建物が建つ空地があり、中央には謙信の養嗣子である景勝を祀る五輪塔が明治37年に建立されている。前述

の解体修理により、現状の霊屋には2棟の部材とその後の補修材が混在して使用されていることが判明した。また、現在謙信霊屋の内部には謙信と景勝の石製位牌が並んで祀られている。これらのことから、現状の謙信霊屋の東側にはかつて景勝を祀る霊屋があり、江戸期を通して2棟が並列して存在したが、江戸末期以降明治後期までの時期に2棟の部材を使用して1棟に建て替えられたと考えられている。

今回の修理は前回修理から20年程度と比較的短期間での実施となったが、既に屋根面に折れ枝が刺さって鉄板による仮修理が数カ所で行われている状況であった。これは杉の巨木がうっそうと繁る奥院の環境下において屋根面への日照が不足していたことや、背面側の斜面から雑低木が覆い被さるように繁茂していた時期があったことなどにより、檜皮の劣化が早期に進行したと考えられる。なお、建物に悪影響を与える周囲の雑低木については、修理計画が立ち上がった頃に環境整備の一環として伐採されている。

事業開始当初は、平葺きの野地部分は比較的健全と想定していたが、足場を掛けて旧檜皮を解体すると野小舞は全て腐朽しており、野垂木も大半は取替が必要な状況であった。このことから、増額を伴う計画変更を文化庁に申請し、許可を得てから当該部分の工事を実施した。

工期中には現場公開を実施し、檜皮職人による施工の様子を見学して頂き、建物の歴史や技法などについて解説した(来場者408名)。また、高野山霊宝館では事業の様子をパネルにて紹介した。(結城 啓司)



旧檜皮解体後の状況



檜皮葺き実施状況

重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか 二棟の保存修理

建築年代：主屋：大正4年(1915)
南外塀・北外塀：大正後期
所在地：新宮市新宮
事業の種類：半解体修理(主屋)、部分修理(外塀)
事業期間：2016.04～2019.09

建物および事業、業務の概要

旧西村家住宅は、西村伊作氏自らが設計し、大正3年から4年にかけて建てられた3度目の自邸である。昭和初期頃まで一家が居住した後は借家とされ、同39年からは西村記念館として一般公開され始めた。平成10年からは新宮市が管理運営を担って現在に至る。

平成28年度から3ヶ年継続の国庫補助事業として保存修理工事に着手しているが、現状変更内容に合わせた計画変更によって、事業期間、工事期間はともに6ヶ月間延長された。その事業において当センターは新宮市より設計監理業務を受託している。

平成29年度は、基礎工事、木工事などの監理を進めながら、現状変更とそれに伴う計画変更の承認申請にかかる資料作成、請負工事発注のための設計図書作成を行った。また、修理現場特別公開や現場見学会のほか、行政担当者や市議、大学教授などの現場訪問・現地視察にも随時対応した。

施工は現在、基礎工事や木工事が終盤に入り、屋根工事や左官工事、塗装工事や建具工事などの作業にも順次取り掛かっている。

保存修理の内容

今回の修理は、建物下の地盤が一部で沈下を生じた



主屋北東、地下室部分での基礎工事の様子



主屋北東での軸組・小屋組復旧の様子

ことにより建物の変形が進み、屋根や壁が破損して雨漏りも起こるなど、悪循環を来していたことから、地盤の安定化を図り、同時に、見学施設としての安全性も向上させることを目的として進められている。

地盤の安定化としては、前年度に実施した建物北側での分解に続いて、地下室下方にコンクリート製の板状基礎を新設した(写真左下)。この施工において、地下室の壁面を構成する石積みの直下からは現在の建物が建てられる前の建物(2度目の自邸)で使用された生活の形跡(排水用の陶製配管など)が検出されたり、今回分解した石積み積み上げられた際にその外側を埋め立てて現在の地面が出来上がったことなど、大正3年頃の敷地内の形状(地面の高低差や傾斜など)や地下室部分の成立過程も明らかになった。

安全性の向上としては、本事業の前に実施された耐震診断事業での補強案に基づき、2つの構造補強工事を行った。1つ目は、修理後に公開範囲として活用予定の地下室において、内部に鉄骨フレームを設置し、その部分が支持する建物自身の荷重に対する石積みの負担軽減と安定を図った(写真下)。2つ目は、将来の地震時において、建物が全体でバランス良く地震力に抵抗できるように、土台や柱、筋違などの軸組材を健



地下室内部、鉄骨フレームの設置状況



主屋北東での軸組復旧の様子

全にし、その部材どうしの組み合わせ部分には金物を追加して強化した。この2つの構造対策によって、修理前には叶わなかった地下室の見学も可能となる。

上記に続く木工事では、分解範囲での復旧作業を進めた。並行して本事業では、分解時の調査で判明した内容を基に建物の来歴を整理し、大正10年代に改造された姿を目指して復元的に修理する、現状変更を行った。西村一家が生活した時期の姿でもあり、道向かいの旧チャップマン邸(大正15年、同氏の設計)が並び建った頃の様相が今回再現されることになる。一方で、昭和以降に改変された様相は、建物から直接的にはうかがえなくなる。そのため、今回の修理で再用しなかった部材は補強材として転用しながら保管するなど、記録だけでなく修理の中へ内包させながらの施工を心掛けている。

今後の予定

次年度には、主屋では瓦屋根の葺き直しや内外の壁の塗り直し、建具などの補修のほか、電気配線や水道配管の復旧など、工事の種類も工事どうしの取り合いも増えて来る。素屋根の解体後には、南外堀・北外堀の修理にも着手していく。(下津 健太郎)

重要文化財 那智山青岸渡寺本堂 の保存修理

建築年代：天正18年(1590)
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
事業の種類：屋根葺替
事業期間：2018.02～2018.12

那智山青岸渡寺は、西国三十三ヶ所巡礼の第一番札所である。如意輪観世音菩薩を本尊とする本堂は、正面9間、側面9間、屋根は入母屋造・こけら葺、屋根面積は1,000㎡を超える、大規模な建物である。現在の建物は、天正9年(1581)の兵火で焼失した後、同18年(1590)に豊臣秀吉により再建された。享保18～19年(1733～1734)には柱や虹梁などを取り替えた大規模な修理も確認されている。明治37年(1904)に特別保護建造物(現在の重要文化財)に指定され、大正14年(1925)に解体修理、昭和37年、同60年、平成18年と屋根葺替修理が行われてきた。

今回の修理は、平成29年10月の台風による豪雨被害を受けて、平葺き部分の劣化が軒先で多く表面化し、強風等による葺き材の脱落や、一部では野地が露出して雨漏りを生じるなどの破損が進行したため、災害復旧事業として実施に至った。

本年度は仮設工事として、境内の一角に工作保存小屋を設置した後、本堂を覆う素屋根の建設を進めた。次年度は、素屋根の中でこけら屋根の葺き替え作業や、屋根まわりの木部補修などの施工を行い、年内の竣工をめざしていく。(下津 健太郎)



素屋根建設中の様子を東南より見る

重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅主屋及び米蔵の保存修理

建築年代：江戸時代
所在地：紀の川市名手市場
修理の種類：屋根葺替、部分修理、耐震診断・補強
修理期間：2017.04～2019.03

旧名手本陣妹背家住宅の敷地は国の史跡に指定されており、旧大和街道に南面している。入り口は敷地東端に御成門が開き、ほぼ中央位置に通用門を設ける。門を入ると正面につし二階建て、棧瓦葺きの主屋(居室部)が南面して建ち、北東に角屋形式で座敷部が接続する。主屋西隣には比較的小規模な南倉が建ち、北西に下屋を三方にもつ米蔵が建つ。以上3棟が重要文化財に指定されている。

妹背家は古く中世からこの地の豪族であったらしく、徳川頼宣が紀州に封入された元和5年(1619)に地土頭の扱いを受け、寛永16年(1639)には大庄屋に任じられた。本陣には元和8年に指定されており、参勤交代や鷹狩りの折、休息所として使用された。敷地内の建物は正徳4年(1714)に市場村の火災で全て類焼したと伝わり、主屋のうち居室部は享保3年(1718)に再建され、その後座敷部が延享3年(1746)に増築されている。米蔵と南倉は記録がないものの、同時期の再建と考えられている。その後数度の改変を経て、昭和44年に重要文化財指定を受けた。この頃には居住実態がなかったようで建物が荒廃を来しており、昭和59年から平成4年にかけて順次解体修理が行われた。その際に現状変更が実施され、座敷が増築されて敷地内の景観が整った延享3年頃の姿に全建物が復原



こけら葺き土庇の解体状況

整備されている。

今回の修理事業は、前回の修理で復原された座敷部東・北面のこけら葺きの土庇が耐用年数にきて雨漏りしている状態であったことから、こけらの葺き替えがまず検討された。また主屋土間の流し廻りや米蔵の壁板足元など、水掛り部分の木材が腐朽を来しており、部分修理を行う必要があった。

また、前回修理時に復原できなかった主屋南西隅の貸家建設時(昭和2年頃)に欠き取られた箇所について、復原できる目処が立ったため、再度詳細な調査を行って現状変更許可申請及び復原工事を実施することとなった。

さらに、近年重要性が高まっている耐震診断及び耐震補強設計、耐震補強工事を合わせて実施する。

工事は全て単年度契約とするため、今年度は木部の補修とこけらの解体など、分解工事を実施した。また現状変更を申請して許可を得た。耐震診断は地盤調査と診断、耐震補強設計まで実施した。次年度にこけら葺き、復原、耐震工事を実施する。(結城 啓司)



流し廻りの腐朽した柱の根接ぎ



現状変更に関わる主屋南西隅部分

国指定史跡 旧名手宿本陣御番所復旧 整備基本設計

建築年代：江戸時代
所在地：紀の川市名手市場
修理の種類：復旧整備
工事期間：2017.04～2018.03

旧名手宿本陣御番所は、紀の川市に所在する国指定史跡「旧名手宿本陣」の敷地内に建つ。史跡内には重要文化財旧名手本陣妹背家住宅も建っている。元和5年(1619)徳川頼宣が紀伊国に封じられた後、妹背家は地土頭の扱いを受け、寛永16年(1639)からは、名手組の大庄屋を勤めた。また大和街道に面しており、藩主の鷹狩りや参勤交代の宿泊休息場所として本陣にとりたてられた。本陣と同一敷地内に行政的な番所の遺構が存在するものは他に例がなく、その価値は高い。

妹背家住宅の北側にある築地の仕切塀を隔て御番所の「主屋」と「離れ・蔵」が建っていた。妹背家文書の「聞書」(『那賀町史料』)に「(前略)但御座所下御庭ノ内土塀切外御露次口并御道具部屋御番所屋敷共御年貢御赦免被遊候」とあり、「御座所」は妹背家の座敷部と思われ、「土塀切外」の「御道具部屋」と「御番所屋敷」が「離れ・蔵」と「主屋」のことだと考えられる。御番所は郡奉行所の補助的な機能を持っていたと考えられるが、詳細は分かっていない。

御番所はのちに駐在所となり、その後借家として使用されていたが、徐々に崩壊し、この状態で放置すれば倒壊のおそれがあった。そのため平成9年に一旦分解され、部材は史跡内に仮設で設置した部材倉庫に保管されていた。その後、長期間経過したため部材倉庫

が破損し、部材の一部が紀の川市内の廃校建物内に移設されていた。

今回、復旧整備基本設計を行うにあたり、棟ごとに部材を分類し、どの部材がどこに保管されているのかを確認する作業からはじめた。分解時に取り付けられた番付札が破損して読めないものもあったが、分解前の野帳や写真で確認しながら、部材の使用部位の特定と不足材の確認を行った。特定が終わると部材別に寸法、仕様、破損状況などを確認しながら調書を作成し、柱は詳細実測を行った。その後、部材調査や実測の結果を整理し、復旧整備基本図を作成した。分解前は借家だったため一部改造されていたが、建築当初の姿が調査によって分かった。

主屋は東側に平屋建ての「居住部」と、西側に2階建ての「役所部」が一体で建っていたが、構造的には独立した架構であった。いずれの建物も単独では存在できないため、現状あるいは前身建物が建った状態でそれぞれの建物が建て直されたことが分かった。

建築年代を示すものは、分解時に天保4年(1833)の棟札が見つかった。また、部材の一部から延享3年(1746)の墨書が見つかった。今回の調査で新たに年代を示すものは見つからなかったが、仕様や痕跡などから居住部が先に建て直され、その後、役所部が建て直された事が分かった。

離れ・蔵は構造的にも一体で建てられていた。蔵は解体前に倒壊しており、腐朽、破損が大きかったが、差鴨居や貫穴などの仕口が残っていたので部分的に実測や仕様を調査することができたので、建築当初の姿が分かった。

(松井 美香)



部材倉庫内(整理完了)



部材調書作成状況

県指定文化財 上岩出神社本殿保存修理

建築年代：文禄3年(1594)
所在地：岩出市北大池
修理の種類：屋根葺替
修理期間：2018.02～2018.08

上岩出神社はかつて白山妙理権現社と称し、明治45年に現在の社名に改名した。紀伊続風土記によると、白山妙理権現は、長承2年(1133)に覚鑑上人が越前の白山権現を勧請したという。

本殿は、桁行が3メートルほどの中規模の三間社流造で、庇は一間通し庇とし、桁行三間分の虹梁形頭貫を架ける。文禄3年(1594)の棟札が存在し、様式上もこの年の建立とみられる。また棟札には施主は興山上人、本願は覚栄法印、大工は平国家とある。本殿は伝統的な様式を保ち、彫刻等の細部意匠も優れている、建立年代の明らかな三間社流造本殿である。

昭和51年(1976)に屋根の葺き替えと縁廻りの修理、昭和59年に塗装と彩色が修理されている。前回の屋根葺替から40年以上が経過しており、屋根全面に苔が生え、軒先の勾配の緩いところは腐食が進行し、野地が露出しているところも見られた。また、箱棟にも傷みが見られるので補修することとした。

平成29・30年度の二ヶ年事業として県の補助を受け屋根葺替工事を行うこととなった。29年度は素屋根の建設と檜皮の拵えを行った。次年度から本格的な葺替工事が始まる。
(寺本 就一)



修理前の上岩出神社本殿

県指定文化財 地蔵堂保存修理

建築年代：天正17年(1589)
所在地：伊都郡かつらぎ町花園北寺
修理の種類：部分修理
修理期間：2018.02～2019.03

地蔵堂は有田川の最上流部、旧花園村の深い山あい
に立地する。旧高野山領花園庄に当たるが、寺の沿革は不明である。

地蔵堂は、小規模な三間堂で入母屋造の屋根はトタンで覆われているが、元の茅葺きが残っている。構造は至って簡素で組物を用いず、深い軒を支える柱が四周に廻る。中央の背面側柱の前に丸柱を立てて、三方を板壁で囲い須弥壇としている。正面・右側面が板戸や蔀戸、背面・左側面が板壁で囲われているが、当初は開放であったと考えられ、いかにも村堂といった風情の建物である。天正17年(1589)の棟札が梁の下面に打ちつけられており建築年代が明らかである。数少ない16世紀に遡る村堂の遺構として貴重であるため、平成19年に県指定文化財に指定された。

地蔵堂は、地元の人びとによって繰り返し修理が施され現在に至っているが、建物が東側に傾き、これ以上放置できない状態となった。平成29・30年度で建物の建て起こし、不陸調整、礎石の据え直しを中心とした修理を行うこととなった。今年度は仮設の設置と揚屋工事に向けた床・壁の解体、建具の格納、揚屋工事の準備を行った。次年度から本格的に工事を行う。

(寺本 就一)



修理前の地蔵堂全景

県指定史跡 切部王子跡社殿保存修理 ～本殿及び拝殿の保存修理～

建築年代：本殿：文政 11 年(1828)
拝殿：江戸末期
所在地：日高郡印南町西ノ地
修理の種類：屋根葺替、部分修理
修理期間：2016.11～2017.05

切部王子は熊野九十九王子のうち五体王子のひとつに数えられていた。天正年間の兵火により焼失し、その後江戸時代に現社地で再建された。現在の境内地は昭和 34 年に県の史跡に指定された。

本殿は大規模な春日造で正面を一間、側面を二間とし、棟札により文政 11 年(1828)に建てられたことが明らかである。内部に納められた宮殿は、正面入母屋造背面切妻造の本格的なもので 17 世紀まで遡ると考えられる。拝殿は入母屋造り本瓦葺き妻入の江戸時代末期の建物である。

平成 28 年 11 月から着手した工事は、本殿の屋根工事・木工事、拝殿の基礎工事(正面切石礎石の取り替え)を終え、本殿箱棟の千木・勝男木の取り付け、素屋根の解体を残すのみとなっていた。5 月にはすべての工事が完了し、五体王子にふさわしい姿を取り戻し、7 月に竣工式典を迎えた。(寺本 就一)



竣工した切部王子跡社殿(切目神社拝殿と本殿)

熊野那智大社拝殿保存修理 ～境内施設整備事業に伴う技術支援～

建築年代：拝殿：昭和 16 年(1951)
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
修理の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
修理期間：2017.11～2019.03

熊野那智大社は、熊野速玉大社・熊野本宮大社とともに熊野三山と呼ばれ、熊野信仰の中心の一つであった。那智山とも呼ばれ、平安時代から江戸時代まで修験の霊場としても栄えた。境内には、西の奥に五殿を並べ、矩折に八社殿を配置し、拝殿・舞殿・幣殿が第四殿・第三殿前にある。本殿は嘉永 4 年から嘉永 7 年(1851～1854)にかけて建てられたもので、重要文化財に指定されている。また、境内は史跡熊野三山に指定されている。

神社では、御創建 1700 年記念境内施設整備事業として拝殿・宝物殿・絵馬掛殿・一の鳥居など 11 棟の修理を計画している。平成 29 年度は拝殿の銅板屋根葺替、塗装修理、向拝部分の解体修理に着手し、平成 31 年 3 月の完成をめざしている。

拝殿は昭和 16 年に内務省によって建てられ、昭和 30 年頃に檜皮葺きから銅板葺きに、昭和 47 年に唐破風の向拝が付属された。書務室・授与所・神饌所などが増築されて現在の姿となっている。銅板の劣化等の不具合から雨漏りが発生し、向拝の桁や柱などに破損が見られた。昭和戦前期に建てられた拝殿は、文化財的価値を有し、重要文化財の本殿に隣接する史跡地内の建物であるため、当センターも修理に協力している。

(寺本 就一)



修理前の熊野那智大社拝殿

景観重要建造物大福院の保存修理に伴う調査・設計

建築年代：江戸時代(17世紀後期)

所在地：田辺市湊

事業概要：現状調査・基本設計、復原調査

事業期間：2017.11～2018.03

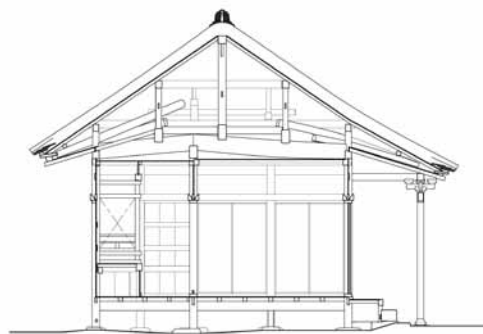
国土交通省は面的な景観整備を推し進めていくために平成29年度に「景観まちづくり刷新支援事業」を新たに設けた。田辺市は全国で10地区の「景観まちづくり刷新モデル地区」のひとつに指定され、闘鶏神社周辺やJR紀伊田辺駅前を含む市街地を「モデル地区」としている。国の支援を得て、平成29年度からの3年間で集中的に整備することで中心市街地の景観資源を活かしたまちづくりを進めていくこととなった。

事業としては、「駅前空間の景観刷新」、「闘鶏神社周辺の景観整備」が行われている。その一環として闘鶏神社境内に隣接する「大福院」にある本堂(平成29年7月に景観重要建造物第1号に指定された)の修理が計画されていて、当センターが文化財に準じた保存修理を行うために必要な調査と設計を行なった。調査の過程で建物が移築の時などに大きく改造されていることがわかったので、田辺市の依頼により痕跡調査と復原案の作成を追加で行った。

大福院は熊野別当湛増の開創で、天正の豊臣氏の兵火で焼かれ、19世紀民慶の代に三宝院末に列した。現在は小院として形をのこすだけになっている。寺蔵の寛永7年(1630)の境内図写にも闘鶏神社の別当本願坊極光寺として今の位置に境内を構えている。本堂



大福院と闘鶏神社周辺の景観
左手の空き地には「街なかポケットパーク」が完成している。



復原桁行断面図

背面の張り出しがなく、外壁が板壁で東側面には2箇所の出入口がある

は小規模な寄棟造本瓦葺きの三間堂で、建立年代は向拝の虹梁絵様から17世紀後期と考えられる。一間の向拝を付け、背面軒下を張り出し須弥壇とする。前から二間目に柱を立てて外陣と内陣とにわけている。内外陣境は中央間を板欄間、両脇間は箴欄間を入れている。向拝の虹梁・木鼻以外に装飾的部材は一切なく簡素な堂である。もと蟻通神社の薬師堂で、大正4・5年頃に移築したと伝えられている。

本堂の基本図を作成するため実測調査を行い、大きく左に傾いた建物の破損調査を行った。雨漏りや経年による破損のほかにシロアリによる被害が大きいことが判明し、床下から始まる蟻道は棟木にまで達していた。

実測調査の段階でかなりの改造がある事がわかった。背面張出が移築時の改造であり、移築前にすでに内外陣境の柱間装置の改変、壁の内法長押から下を板壁から土壁に改変がある事などが判明した。

平成30・31年度で実施設計と修理を実施し、モデル地区内の他事業と同時の完成を予定している。

(寺本 就一)



大福院本堂正面全景

紀伊地域の首長墓系譜について

1. はじめに

当センターは、全埋協（全国埋蔵文化財法人連絡協議会）近畿ブロック主催の「関西考古学の日」記念講演会に毎年参加している。2013年度の主題は『ヤマト王権と地域首長』で、私は標記の題で紀伊の古墳時代像を概括したうえで、討論に臨んだ。この発表はパワーポイントを用いた口頭発表で、個人見解を含むものであったが、一般の方々に好評だったので、その内容と編年図を紹介したい。

2. 古墳の分布状況

紀伊地域は畿内地域から南に山を越えた場所であり、海に向かって開けている。ほとんどが山地で、和歌山平野と日高平野に古墳が集中している。

古墳総数は約 1500 ～ 1600 基で、その半数が和歌山市内の岩橋千塚にある。和歌山市内は古墳が多いが、紀ノ川を遡ると古墳数は激減する。橋本市まで行くと再び古墳が増えてくるが、畿内色の強い古墳となる。

日高平野周辺では、紀の川下流域や畿内のほか、九州・四国を含む西日本各地の特徴をもつ横穴式石室や混在している。海上ルートを通じて多地域の人びとが集まって来た様子がみえてくる。

上富田町・白浜町域を流れる富田川流域まで古墳群が形成されており、この地域には沿岸の岩陰に墓をつくる遺跡も混在する。富田川より南には、すさみ町上ミ山古墳、那智勝浦町下里古墳のほか古墳がない。

3. 古墳時代前期

紀伊の古墳時代は、弥生時代的な方形周溝墓群内に前方後方形・前方後円形の墓が出現するところから始まる。前方後方形の墓は和歌山市の井辺遺跡や川辺遺跡、御坊市の尾ノ崎遺跡にあり、前方後円形の墓は和歌山市の秋月 1 号墳、みなべ町の片山遺跡にある。どちらの場合も主体部は不明で、周溝から出土した土器で年代を推定している。

ここで注意が必要なのは、紀伊では古墳時代になってもしばらく、弥生時代風の平底タタキ甕などの土器が使われていたことである。和歌山県最古の前方後円墳として知られる秋月 1 号墳の年代は、周溝の底から

出土した土器を実際に検討したところ、いわゆる纏向型前方後円墳出現期にあたるものと推測されるが、周囲には古墳時代前期の周溝墓状の墓が展開している。

つまり、ヤマト地域とほぼ同時期に紀伊の古墳の形も一瞬だけ前方後円形になったが、すぐに方形周溝墓風の墓に戻ったということらしい。規模も小さいものばかりで、群中で首長墓系譜を追うのは難しい。

4. 古墳時代中期

全国の編年案に合わせると古墳時代前期末にあたるかもしれないが、紀伊における古墳時代中期的様相は各地の丘陵上に古墳群の形成が開始されるところから始まる。朝鮮半島との交流が盛んとなり、紀の川河口部の港津群（紀水門＝紀伊湊）が発展する。

紀の川北岸の平井津（和歌山市平井）付近では晒山古墳群が築かれ、馬冑で有名な大谷古墳はその中期末の首長墓にあたる。付近には初期須恵器で有名な楠見遺跡や、列島最大級の大型倉庫群が築かれた鳴滝遺跡がある。紀臣系集団の軍事・交易拠点といえるだろう。

紀の川南岸の徳勒津（和歌山市新在家）付近では、水路群「名草溝」が開削され、農業生産力が飛躍的に高まる。その水源祭祀を行う紀直、後の紀国造家は、水路の分水地点に面した丘陵上に花山 8 号墳を築き、岩橋千塚古墳群の形成を開始する。また、大伴連系の集団の墓域と推測される井辺前山古墳群では、井辺前山 24 号墳が築かれている。

しかし、これらの古墳群の造墓活動はすぐに広域の地域全体で集約されるようになり、地域全体の玄関口や新たな生産域に面して二つの墓域が出現する。

大阪府岬町の淡輪古墳群には、西陵古墳と淡輪ニサンザイ古墳（宇土墓）という巨大な古墳が築かれており、紀伊地域と和泉地域南部の勢力を背景に朝鮮半島との交易や軍事面を担った、地域を代表する大首長の墓が築かれているようである。

和歌山市西部の木ノ本古墳群は、茶臼山古墳、車駕之古址古墳、釜山古墳という 3 代にわたる首長墓が築かれている。古墳群前面の低地には文献によると牧があったようで、砂堆上の西庄遺跡では製塩土器や各種手工業製品が多量に出土している。木ノ本古墳群の被葬者はこれらの技術者集団の統率者なのだろう。

これら二つの古墳群は、難波京下層の港の発展と紀臣系集団の畿内への移動に伴い終息する。

5. 古墳時代後期

後期には各地丘陵上での古墳群形成が再開される。

岩橋千塚古墳群では、花山6号墳→大谷山22号墳→大日山35号墳→天王塚→寺内57号墳→井辺1号墳の順に大首長墓の築造が続く。これらには中小の首長墓が伴っており、その周囲に多数の円墳が展開して、群集墳を構成する。

埋葬主体部としては、石棚・石梁をもち、板石で閉塞する岩橋型横穴式石室が創出される。また、胡籬や鷹、双脚輪状冠帽などを対象とした独特な形象埴輪が作られる。これらは朝鮮半島や西日本各地との繋がりから生まれたものと考えられる。

前方後円墳の築造が終わり、首長墓は大型円墳、大型方墳へと形を変え、やがて古墳の築造が終わる。各地の古墳群も同様に終息する。

終末期古墳として、橋本市隅田八幡宮古墳や御坊市岩内1号墳が知られるが、畿内的な古墳である。特に後者は有馬皇子の墓との説が有名である。

(丹野 拓)



図1 紀伊地域の古墳分布図

前方後円墳 編年	年代の目安	名草北部(紀ノ川下流域北岸)	名草南部(紀ノ川下流域南岸)	那賀・伊都	海部・有田	日高	牟婁	関連遺跡と紀伊地域の動向
前期	1期 (庄内・布留・古) 前方後円墳成立		●秋月1 ●鳴神4			●片山SX2 ●尾ノ崎1		横型前方後円墳 箸墓
	2期 (布留・古) 周溝墓の相継		●秋月3			●片山G		桜井茶臼山
	3期 (布留・中)					●片山D		東大寺山
	4期 (布留・中～新) 古墳定型化	●六十谷2 ●岩橋千塚古墳群	●井辺前山古墳群		(山田原)	(尾ノ崎14) (阪東丘1)(城山)	●下里	淡輪古墳群 琴柱形石製品出土
中期	5期 (布留・新～TG232) 粘土・粘土石・土器	●晒山1 (八王子山8)	●花山8 (花山36) ●秋月7			●岩内3 ●尾ノ崎16	●山王1	紀水門で朝鮮半島 との交易盛ん 梶見遺跡
	6期 TK73	●木ノ本古墳群 ●茶臼山	●花山10 ●鳴神2 ●花山44 ●寺内63 ●山崎山5	●丸山	(箕島2)	(阪東丘2)		西陵 鳴滝倉庫群 西小山
	7期 TK216～TK208	●車駕之古址 (直川八幡山古墳群)	●秋月5 ●(花山2) ●(前山A65) ●前山A17	●罐子塚	●椒	●片山A-SX1 (磯間岩陰1) (脇ノ谷)		淡輪ニサンザイ
	8期 TK23～TK47 横穴式石室導入	●釜山 ●大谷 ●晒山2	●花山6 ●大谷山6 ●前山A58	●陵山 ●三味塚	●湯浅天神山	●天田28	●権現平1 ●(岩田1)	法円坂倉庫群 古墳群再編
後期	9期 MT15～TK10 岩橋型石室で水平梁 形象埴輪独自化 埴輪消滅	●大谷西(仮称) (八王子山古墳群) ●晒山10	●大谷山22 ●大谷山20 ●大日山35 ●井辺八幡山 ●寺内18 ●天王塚 ●将軍塚 ●寺内57 ●山東22 ●井辺1 ●井辺2 ●井辺12	●双子三味塚 ●黒土 ●平池1 ●船戸山3 ●船戸箱山 ●八幡塚 ●北1 ●平池2	●真島1	●秋葉山1	●上ミ山 ●(岩田2)	岩橋千塚古墳群の 移動・拡大開始 群集墳発達
	10期 TK43～TK209 岩橋型石室で垂直梁 石室南面 首長墓円墳化 首長墓方墳化	●奥出 ●園部丸山 ●鳴滝1	●室山1 ●寺山15 ●前山A46 ●前山A67 ●前山A39 ●山崎山1	●八幡宮	(宮原)	●祓戸10	●後口谷	岩橋型石室発達 前方後円墳築造停止
終末期	TK217～ 終末期	●鳴滝2	●井辺1 ●井辺2 ●井辺12		●女良 ●湊澤女	●岩内1		寺院造営開始

()は根拠の弱いもの

図2 紀伊地域の古墳編年表

平成 29 年度の普及活動

○埋蔵文化財に関する普及事業

- ・シンポジウム・報告会
和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」
公開シンポジウム
「中世熊野の港湾遺構 新宮津を考える」
- ・現地見学会
「歩いて知るきのくに歴史探訪～新宮城跡周辺の文化財を考える～」
- ・和歌山県内埋蔵文化財調査成果展
「紀州のあゆみ」
- ・発掘調査現地説明会・現地公開
「田屋遺跡(第2次)」、「川辺遺跡・東城跡(第2次)」
- ・「関西・考古学の日 2017」関連事業
スタンプラリー、記念講演会「近世城郭と城下町の風景」

○文化財建造物に関する普及事業

- ・修理現場見学会
「重要文化財 上杉謙信霊屋」
「重要文化財 旧西村家住宅」

埋蔵文化財に関する普及事業

平成 29 年度の普及啓発事業として埋蔵文化財関係では 8 件の事業を実施した。現地説明会・現地公開は県内の各発掘調査現場において随時実施した。

季刊情報誌「風車」の刊行の他、各事業において資料集やマップ等を作成し、参加者及び周辺自治体、研究機関等に配布し、好評を得た。

文化財調査報告会「地宝のひびき」

平成 29 年 7 月 23 日に和歌山県立図書館(きのくに志学館)2 階講義・研究室において、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを知っていただくため、和歌山県内文化財調査報告会と題して開催した。参加者数は、55 人である。

発表は、「地形環境復元と集落の形成—和歌山市津秦Ⅱ遺跡の調査—」藤藪勝則氏((公財)和歌山市文化スポーツ振興財団)、「山裾に展開する集落—相方遺跡の第 2 次発掘調査—」村田弘(当センター)、「よみがえる中世新宮津の姿—新宮市 新宮城下町遺跡の発掘調査—」小林高太氏(新宮市教育委員会)、「太田城水攻め関連遺構について—友田町遺跡第 7・10 次発掘調査—」菊井佳弥氏((公財)和歌山市文化スポーツ振興財団)、「中近世の火葬墓を発見—吉原遺跡の発掘調査—」金澤舞(当センター)、「立野遺跡と仮庵山経塚群の出土品—新規県指定文化財の紹介—」丹野拓氏(和歌山県教育委員会)である。



地宝のひびき 開催風景



地宝のひびき 発表の様子

公開シンポジウム「中世熊野の港湾遺跡 新宮津を考える」

平成 30 年 1 月 7 日、公開シンポジウム「中世熊野の港湾遺跡 新宮津を考える」を新宮市商工会議所大ホールで開催した。参加者数は、82 人である。

講演は、同志社大学文化情報学部教授の鋤柄俊夫氏に「新宮城下町遺跡にみる中世都市の諸相」という題で講演をいただいた。その他の発表は、「新宮城下町遺跡をとりまく環境」小林高太氏(新宮市教育委員会)、「新宮城下町遺跡の発掘調査」川崎雅史(当センター)、「中世熊野川河口の物流環境」山本殖生氏(熊野三山協議会)である。発表後には、各発表者による討論を行い、新宮津や中世の新宮城について意見を交わした。また、発表内容等について、参加者からの質疑に関連する各発表者が回答し、参加者の理解を深めた。



シンポジウム 開催風景



シンポジウム 発表の様子



シンポジウム 討論の様子

現地見学会「歩いて知るきのくに歴史探訪～新宮城跡周辺の文化財を考える～」

平成30年2月4日、「歩いて知るきのくに歴史探訪～新宮城跡周辺の文化財を考える～」を開催した。当日は22名が参加し、新宮市内の遺跡等をマップ片手に歩いて見学した。新宮市教育委員会の小林高太氏の案内のもと蓬萊山・阿須賀神社および新宮市立歴史民俗資料館を歩いたほか、新宮城では日本城郭史学会の水島大二氏の解説を受けた。また、当センターで発

掘・修理を進めている新宮城下町遺跡・旧西村家住宅の見学も併せて行った。



徐福公園 見学の様子



新宮市立歴史民俗資料館 見学の様子



新宮城 見学の様子

和歌山県内埋蔵文化財調査成果展「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民等に公開することを目的に、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館・有田市郷土資料館で巡回展示を行った。展示を行った遺跡は、平井遺跡・平井Ⅱ遺跡・山口古墳群・相方遺跡・根来寺遺跡・中飯降遺跡・吉原

遺跡で、新規県指定の文化財として仮庵山経塚群の出土品も併せて展示した。展示期間は、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館では平成 29 年 6 月 3 日～7 月 2 日、有田市郷土資料館では平成 30 年 1 月 20 日～2 月 20 日であった。また、来館者はそれぞれ 891 名、486 名であった。



紀州のあゆみ 会場風景(紀伊風土記の丘資料館)



紀州のあゆみ 会場風景(有田市郷土資料館)



紀州のあゆみ 展示講座の様子(紀伊風土記の丘資料館)

『関西・考古学の日 2017』記念事業

平成 29 年 9 月 30 日、『関西・考古学の日 2017』記念事業として、講演会「近世城郭と城下町の風景」をイオンモール和歌山 3 階イオンホールで開催した。

記念講演は、「近世城郭を考古学する一発掘調査でわかったこと」中井均氏(滋賀県立大学)である。谷地域の近世城郭の調査事例とした基調報告は、「大坂城下町とその周辺」小田木富慈美氏((公財)大阪市博物館協会 大阪市文化財研究所)、「伏見城」山本雅和氏((公財)京都市埋蔵文化財研究所)、「和歌山城」北野隆亮氏 ((公財)和歌山市文化スポーツ振興財



関西・考古学の日記念講演会 開催風景



関西・考古学の日記念講演会 基調報告の様子

団)、「利神城跡と平福御殿屋敷跡」垣内拓郎氏((公財)兵庫県まちづくり技術センター)である。参加者数は、132 名であった。

発掘調査現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため発

掘調査の現地説明会・現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に多数の参加者を得ることができた。

現地説明会・現地公開を開催した遺跡と開催日及び参加者は、田屋遺跡(平成29年7月25日)約10名、川辺遺跡・東城跡(平成29年11月26日)73名であった。



田屋遺跡現地説明会風景



川辺遺跡現地説明会風景



東城跡現地説明会風景

文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。また現場によっては施工業者による実演を実施してもらった。主な公開は次のとおりである。

このほか旧西村家住宅においてヘリテージマネージャー講習会(和歌山県建築士会開催)の受け入れや県立高校社会科教員の研修の受け入れ等に対応した。

重要文化財上杉謙信霊屋修理現場見学会

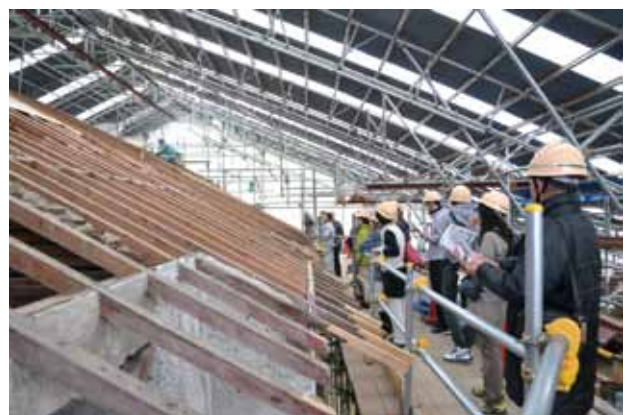
10月7日 参加者 408名



上杉謙信霊屋での現場見学会

旧西村家住宅保存修理現場見学会

11月18日 参加者 45名



旧西村家住宅での現場見学会

(公財)和歌山県文化財センター 平成29(2017)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	7 件
埋蔵文化財遺物整理等受託業務	1 件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	10 件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	14 件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	29.06.05	アバローム紀の国
評議員会	29.06.20	アバローム紀の国
理事会	29.12.01	和歌山県自治会館
理事会	30.03.23	アバローム紀の国

調査指導

中世の海上交通と新宮城下町遺跡(新宮津)について (新宮城下町遺跡確認調査(2)支援業務)	29.04.04 綿貫友子(神戸大学) 於：新宮城下町遺跡発掘調査現場
新宮城下町遺跡で検出された遺構の評価について (新宮城下町遺跡確認調査(2)支援業務)	29.04.14 鋤柄俊夫(同志社大学) 29.05.17 黒崎 直(大阪府立弥生文化博物館) 於：新宮城下町遺跡発掘調査現場
祓殿石塚(仮称)発掘調査等事業 (熊野古道見どころ整備事業)	29.12.27 小野健吉(和歌山大学) 29.12.28 菅谷文則(奈良県立橿原考古学研究所) 30.01.05 西村幸夫(東京大学・日本イコモス国内委員会) 30.02.27 吉松敏隆(南紀ジオパーク推進協議会) 30.03.14～15 中村崇志(文化庁) 於：祓殿石塚遺跡(仮称)発掘調査現場等

埋蔵文化財関係

近畿ブロック主催者会議等

平成 29 年度第 1 回(第 55 回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	29.06.02	主催：(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
第 38 回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	29.06.15、16	主催：(公財) かながわ考古学財団
平成 29 年度第 1 回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	29.08.04	主催：(公財) 枚方市文化財研究調査会
平成 29 年度第 1 回全国埋蔵文化財調査情報交換会	29.09.21	主催：(公財) 東京都スポーツ文化事業団
全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック埋蔵文化財研修会	29.11.24	主催：(公財) 元興寺文化財研究所
平成 29 年度第 2 回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	30.02.02	主催：(公財) 枚方市文化財研究調査会
平成 29 年度第 2 回(第 56 回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	30.02.09	主催：(公財) 京都市埋蔵文化財研究所
『関西・考古学の日 2017』スタンプラリー	29.07.15- 29.11.30	主催：『関西・考古学の日』実行委員会 (全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック)

文化財建造物関係

平成 29 年度文化財建造物保存修理等監督者会議	29.04.13	主催：文化庁
平成 29 年度文化財建造物保存修理事業幹部技術者研修会	29.04.14	主催：(公財) 文化財建造物保存技術協会
平成 29 年度文化財建造物保存修理中堅技術者研修会	29.07.31-08.04	主催：(公財) 文化財建造物保存技術協会
平成 29 年度登録有形文化財建造物修理関係者等講習会	29.08.03-04	主催：文化庁(高岡市)
平成 29 年度文化財建造物保存修理関係者会議(第 63 回)	29.10.23	主催：文化庁
平成 29 年度文化財建造物主任技術者研修会	29.10.24-25	主催：(公財) 文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

村田 弘	紀の川市文化財保護審議委員	29.04.01-30.03.31
村田 弘	名手本陣保存整備委員会委員	29.04.01-30.03.31
川崎 雅史	御坊市文化財保護審議委員	29.04.01-30.03.31
川崎 雅史	みなべ町文化財保護審議委員	29.04.01-30.03.31
結城 啓司	史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査委員長	29.04.01-30.03.31

III 講師等派遣・執筆など

埋蔵文化財関係

金澤 舞	紀伊考古学研究会例会「田屋遺跡における最新の発掘調査成果」	30.01.13	於：和歌山市立博物館
------	-------------------------------	----------	------------

文化財建造物関係

寺本 就一	民家ガイドツアー「旧柳川家住宅・旧小早川家住宅」	29.04.22	於：和歌山県立紀伊風土記の丘
下津健太郎	「継桜王子跡社殿」解説 継桜王子跡社殿保存修理工事実行委員会	29.05.03	於：継桜王子
寺本 就一	平成 29 年度第 2 回世界遺産セミナー 「修理を通して見た熊野参詣道沿いの建造物」	29.07.01	於：上富田町岩田公民館
寺本就一・結城啓司	「平成 29 年度文化財建造物保存修理事業技術者養成教育」 現地解説	29.07.24	於：根来寺、粉河寺、金剛三昧院
下津健太郎	平成 29 年度和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会 「文化財建造物の修復」	29.08.19	於：和歌山県建築士会館
結城 啓司	「伽藍西塔内部特別公開」解説	29.08.24、09.03	於：金剛峯寺壇上伽藍
下津健太郎	「旧西村家住宅保存修理現場から」講演、見地説明	29.09-10	於：旧西村家住宅ほか
結城 啓司	「重要文化財上杉謙信霊屋修理現場見学会」解説	29.10.07	於：金剛峯寺奥院
大給 友樹	「旧西村家住宅保存修理現場見学会」解説	29.11.18	於：旧西村家住宅
下津健太郎	「湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区」 解説 木材・木造建築に関する担い手育成事業	29.12.17	於：湯浅町伝建地区
下津健太郎	「伊作さんのこしたもの～旧西村邸の修復を通して～」 講演 環境問題研究会	30.01.17	於：新宮市井の沢隣保館
寺本 就一	「闘鶏神社・高原熊野神社・継桜王子社の社殿を通して見た神社建築について」 講演・現地解説 田辺市語り部・ガイド団体等連絡協議会研修会	30.02.10	於：田辺市役所、闘鶏神社、高原熊野神社、継桜王子
下津健太郎	「重要文化財旧西村家住宅主屋ほか二棟保存修理工事一工事の概要と建物の変遷、現状変更について」 平成 29 年度文化財建造物保存修理主任技術者研修会 発表報告集	29.10.23	発行
下津健太郎	「重要文化財旧西村家住宅主屋ほか二棟保存修理工事 工事進捗報告一人から建物へと目を向けて」 『文建協通信 130 号』	29.10	発行

IV 刊行図書・出版物等

年報

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2016』	29.05.31	発行
----------------------------	----------	----

埋蔵文化財課関係

現地説明会資料		
「田屋遺跡第 2 次発掘調査」現地説明会資料	29.07.25	発行
「東城跡発掘調査」現地説明会資料	29.11.26	発行
「川辺遺跡第 2 次発掘調査」現地説明会資料	29.11.26	発行

報告会・シンポジウム資料等

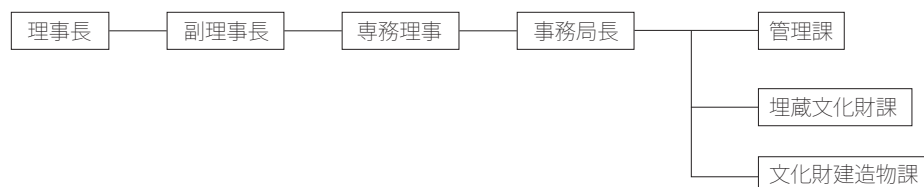
『地宝のひびきー和歌山県内文化財調査報告会ー』資料集	29.07.23	発行
『和歌山県内埋蔵文化次亜調査成果展 紀州のあゆみ』展示リーフレット	29.06.03	発行
『中世熊野の港湾遺跡 新宮津を考える』資料集	30.01.07	発行
『立野遺跡 木の国の源流ー弥生時代前期の木製品製作遺跡ー』パンフレット	30.03.30	発行

埋蔵文化財と文化財建造物のミニ情報誌（公財）和歌山県文化財センター通信『風車』

第 79 号	特集「新宮城下町遺跡第 1 次発掘調査－縄文時代から中世の遺構－」	29.06.30 発行
第 80 号	特集「田屋遺跡第 2 次発掘調査」	29.09.30 発行
第 81 号	特集「旧西村家住宅の保存修理(2)」	29.12.28 発行
第 82 号	特集「旧名手本陣の保存修理－妹背家住宅と御番所－」	30.03.31 発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理 事 長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮下 和己	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井上 雅幸	元和歌山県参事
理 事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理 事	小野 健吉	和歌山大学 教授(29.06 ～)
理 事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 館長
理 事	鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所 所長
理 事	中村 浩道	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長(29.06 ～)
理 事	中村 貞史	元大阪経済大学非常勤講師
理 事	西川 秀紀	宗教法人東照宮 代表役員(～ 29.06)
理 事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会会長
理 事	水田 義一	前和歌山県立紀伊風土記の丘館長(～ 29.06)

役員（監事）

監 事	風神 正典	税理士・風神会計事務所 代表社員
監 事	木皮 享	和歌山県教育庁 生涯学習局長

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
岡本 邦敬	和歌山県立博物館 副館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 院代
加藤 容子	元和歌山県教育委員
坂口 真史	和歌山県教育庁文化遺産課長
佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員
千森 督子	和歌山信愛女子短期大学 教授
山陰加春夫	高野山大学 名誉教授
米田 良博	和歌山県立紀伊風土記の丘副館長
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長

職員

事務局長	南 正人
参 与	寺本 就一(文化財建造物課課長事務取扱)

管 理 課

主 査	松尾 克人
副 主 査	出口 由香子
副 主 査	中野 一三

埋蔵文化財課

課 長	藤井 幸司
副 主 査	金澤 舞
副 主 査	村田 弘
副 主 査	佐伯 和也
副 主 査	土井 孝之
技 師	川崎 雅史
技 師	加藤 達夫 (30.03.31 退職)
専門調査員	小林 充貴

文化財建造物課

課 長	多井 忠嗣 (自己啓発休業)
副 主 査	下津 健太朗
副 主 査	結城 啓司
技 師	大給 友樹
技術補佐員	松井 美香

表紙図案

表紙右上 和歌山城跡出土 鳥笛

表紙下 大福院本堂復原立面図 (案)

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2017

2018 年 5 月 31 日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1
TEL 073-472-3710
FAX 073-424-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>
E-mail: kanri-2@wabunse.or.jp

【印刷】

白光印刷株式会社

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>